



妙たえの光ひかり

通刊55号 復刊34号

2001年7月10日(季刊)

角田山妙光寺 発行
新潟県西蒲原郡巻町
角田浜 〒953-0011
TEL 0256-77-2025

新しいお釈迦様像

座高九十、台座から光背までの総高さ二百十センチ。普通の大人よりひと回り大きい体格。樹齢数百年という木曾檜で、三十年ほど乾燥した木が用いられた。

寄せ木作りといって、一本の木を彫ったものではなく、木を重ねたり、組み込んだりして一体のお像にし、さらに胎内をえぐり込んで胴を薄くすることでびび割れを防ぐ。その胎内にはこのたびの本堂工事寄付者全員の名簿が納められている。

手の形は「説法印」といって教えを説かれるお姿で、三条市本成寺にある日蓮聖人が在世当時のお釈迦様像をモデルにした。お顔は十円玉にある宇治「平等院鳳凰堂」の仏さまと同じ様式で、平安時代の特徴を持つ仏顔(ほとけがお)に彫られている。

この両脇に脇侍仏として、これから四体の菩薩像を彫り、来年秋に完成しお迎える。

四月二十八日の本堂・祖師堂落慶式で、住職が仏祖三寶に対して、新本堂・祖師堂の落成と、仏像の開眼を奉告しました。その全文を改めて掲載し、皆様に経緯をお伝えします。難しい言葉が多くてわかりにくいかと思えます。伝統的な重々しさと、聞こえ易さ、分かり易さ、簡潔さ、これらを考えて作文するのですが、力不足で十分なものにできませんでした。

奉告文

南無久遠実成本師釈迦牟尼佛、南無末法唱導師高祖日蓮大菩薩、当山開山摩訶一阿闍梨日印上人以来歴代の先師先哲、来臨影嚮証知照監の御前に於て、恭しく一乘円頓の法筵を展べ、以て新本堂並びに祖師堂の落成を告げ奉る。

伏して史を按ずるに、当山は文永八年十月、宗祖日蓮大聖人佐渡配流の砌御一泊、御真筆三題目の靈地なり。後正和二年、日印上人の開創より、歳を閲すること六百九十年、代を累ぬること五十有三代にして、今不肖日光に至る。その間、ときに寺連の消長ありしも、文献の徴すべきもの乏しく、その詳細を知るを得ず。

而して当山本堂は、宝暦六年二度目の火災のため、一山壊滅の被害を受く。この祝融の禍に遭いて興亡の岐路に立ちしも、三十三世日耀上人、檀信徒とともに幾多の困難を超え宝暦十四年、庫裡に続き本堂の再建を成す。しかりといえども、五十年の間、二度の災禍を受け、本堂建立は苦難を極め、材料の調達は思うにまかせず、仮本堂といひ伝えられしゆえんなり。

爾来二百三十有余年、日本堂は風雪に耐えしかども、その老朽化はいかんともしがたく、先代英一日

陽上人克く増築補修に努められたるも、漸くその用に堪えざらんとす。昭和四十九年二月、日陽上人遷化の後を受け、不肖英爾日光、昭和五十年四月、佛縁のしからしむるところにより、弱冠二十二才にして当山の法燈を継承し、爾来すでに二十六年を経たりぬ。

この間、某山内の整備と、寺門護持のため心中に期する処ありしども、若輩非才非力にして素志を達すること能わず。この間に、老朽化著しく、祖師堂床の陥没、本堂屋根の雨漏りと続き、平成六年末には、本堂・祖師堂改築やむなしの声期せずして四方より起れり。

平成七年四月、総代世話人会議にて旧本堂の維持存続は不能との声多き受け、基本計画の検討に入りたり。現客殿に続き茶台正洋東京工業大学名誉教授、中沢敏彰設計士にその基本設計を依頼、平成九年三月正式に計画案を決め、趣意書をもって県内外の檀信徒、安穩会員に協力を仰げり。

かくして半年あまりの間に檀信徒をはじめ、あまたの安穩会員より浄財喜捨の申し出あり。経済状況甚だ厳しきときなるも、護山護法の念各位に厚く、十方有縁の士女にいたるまで、挙つて浄財を喜捨せられしこと、感激の極みなり。

平成十二年一月、総代世話人会議にて、施行は十社を越す大手建設会社の受注依頼の中より、文化財及び寺社建築に多くの実績を有し、県内屈指の建設会社、株式会社加賀田組に決定せり。同二月工事契約を結び、五月六日本堂の解体作業より着手、六月二日地鎮式を挙ぐ。以後、工事は順調に進み、八月十九日上棟式を厳修、明けて平成十三年四月二日木造本堂四十二坪、祖師堂二十二坪、及び回廊の完成を見、このほど引き渡しを受けたり。

右に時を同じうし、造園設計家野澤清氏指導のもとに、参道初め造園工事その他の境内整備を完了せ

り。また本堂仏具一式は旧本堂の櫺部材を再使用し、篤志奉納者の協力を得て角田浜の大工齋藤新一氏丹精込めたる新調なれり。祖師堂仏具は旧本堂仏具を修復せしものにて、株式会社「放光」の手によるものなり。かくして、関係各位の熱意と優れた技術とにより、甚だ満足すべき成果を得たり。これみな檀信徒一同深く喜びとするところなり。

某、このたびの基本計画を樹つるや、新本堂に釈迦牟尼佛、四菩薩像の奉安を発願せり。いわゆる一尊四士本尊形式なり。近年漸く檀信徒の世代交代が進み、加えて安穩廟を縁に新たに檀徒として入信せるもの多し。よつて身近にして、わかりやすき本尊形式の必要性を痛感し、一尊四師像の奉安に思い至れり。

この議、総代世話人会議に諮り、衆議を経て然る後にこれを決す。すみやかに数多くの人を介し、各地の佛師との面談を経たる後、滋賀県天台宗東雲寺ご山主吉田慈敬師の紹介を得、滋賀県甲南町在住の佛師石川真水師に縁を得たり。師は日本佛師の祖とされし定朝の直系にして、時に五十才。経験、創作意欲共に豊かしてその才優れたり。

師と対面するやただちに高さ三尺の釈迦牟尼佛座像の制作を依頼す。されどながら、菩薩像四体分の費用一千四百万円は見通し立ちがたく、二十年の長期計画を覚悟せり。その旨普く檀信徒、安穩会員に伝えしところ、はからずも四菩薩像奉納の寄進申し出相次ぎ、日ならずして全予算に至れる。

よつて本日新本堂落慶に際し、見事に完成せし釈迦牟尼佛像の入佛開眼を挙行せり。その御姿は東京池上本門寺学頭市川智康師御指南のもと、法華宗総本山三条本成寺格護、日蓮聖人ご在世時からの釈迦牟尼佛像の説法印を踏襲す。

妙法蓮華經法便品に説いていわく、若し人ここにあって、釈迦佛のためもろもろの像を作らば、それらのひとびとは皆佛道を成就せん。諸仏の御像に華や香や旗や蓋（がいのおおい）を供養し、さらには鼓を打ち、簫や琴、琵琶、ニョウハチ等の樂器を打ち鳴らして、釈迦佛の徳を誉め称えなば、これらの人々は皆佛道を成就せん。

顧みるに平成七年春、案を起こしてより丸六年の長き時と、二億五千万円の淨財を得て本堂・祖師堂新築の業成り、境内整備完了し、今ここに所期の目的を果たすことを得たり。これ実に当山二百三十年来の大事業なり。不肖日光この淨業を悉く成就することを得て、歎喜極まりなし。これひとえに総代世話人、檀信徒、安穩会員初め有縁のあまたの力に依るといへどもまた、佛祖三宝諸天善神の加護によらずんばあたわず。よって本日ここに宗門内外各聖、護持丹精各位の参列を得、道場を莊嚴し、威儀を具足し、天童音樂大法要を虔修し、以て落慶奉告の式典を挙行するものなり。

来たる平成十四年、これ宗祖日蓮大聖人立教開宗七百五十年の聖歳なり。我等この千載一遇の時に遣い奉りたるは、正しく大聖人の此の土に還来して我等を叱咤し給うなるべく、聖意真に深遠なり。不肖日光引き続き我身をこの法域に捧げ、自行化他に互って昼夜に精進せん。

仰ぎ願わくは上来勸請の諸尊擁護を垂れ、山門隆昌にして伽藍相統し、異体同心にして寺檀和合し、この方便をもって法をして久住せしめたまわんことを。

南無妙法蓮華經

維時平成十三年四月二十八日吉辰

角田山妙光寺 五十三世 顯妙院英爾日光和南

お釈迦様像を運搬

東京 吉川 康 信さん（53才）



新しいお釈迦様像を、滋賀県にある仏師の工房から運んだのが檀家の運送会社で吉川運輸。新潟から毎日関西に行くトラックの、帰りの便に乗せてもらった。

仏像だけに専門の業者を頼むと大変な金額になるが、吉川さんには経費一切を奉納いただいた。

お盆に住職が伺った際お願いしたので、お参りに来ていた妹さんが「お兄さん、大切な仏様なのに大丈夫？」と聞けば「もちろんさ。こんなありがたいお話ないじゃないか。しっかりやるよ」と吉川さん。その言葉通り、事前に営業所長、担当者と打ち合わせを重ね、搬出と搬入の現場を確認し、当日は十分な時間を取り、ベテラン社員を大勢だしていただいた。

最初は石川仏師も心配して「一緒に卜

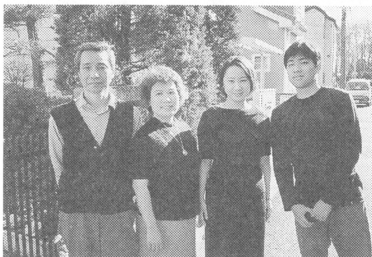
ラックに乗せてもらう」と言っておられたのが、相談するなかで「全く安心なので後から飛行機で追いかけます」となった。

東京神田に本社がある。吉川さんはその二代目社長。両親で先代の社長夫婦が巻町の出身で、お墓は五カ浜にあった。戦争から帰って職がなく、夫婦で上京。リヤカー一台を買って、修理に出す工場のモーターや機械を秋葉原の電気屋街に運び、それをまた工場に戻す仕事を始めたのが最初。真面目で堅実な人柄もあって得意先を増やし、後には録音テープで大会社になったTDKの専属運送会社にまで発展した。その父が晩年体を壊し、リハビリを続ける中を母が会社を切り盛りした頃

もある。その母が今の吉川さんに全てを任せた後「運送会社は事故もあるし、若い運転手をまとめることも、お得意さんが他の運送会社に変らないよう気を使うことも、本当に大変です。息子が気の毒に思える」と心配し、たびたび故郷の新潟に帰っては、妙光寺にお参りするのが楽しみにしていた。

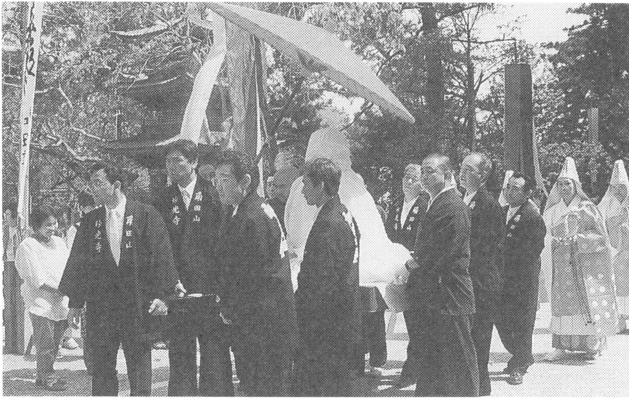
今はトラックが三二〇台。東日本各地に営業所があるが、この不況は大変厳しく吉川さんも忙しい毎日を送る。

そんな多忙ななか、落慶式には夫婦で東京から駆けつけ、開眼法要に参列。感動したと語ってくれた。また来年秋には完成する四体の菩薩像を運んでいたことになっている。



家族とともに

落慶式報告



お釈迦様像のお練り

四月二十八日暑いほどの晴天に恵まれて、新本堂の落慶式を営みました。

地元の檀家若手が担ぐ新しいお釈迦様像を山門でお迎え。まばゆいばかりの新緑のもと、色とりどりの散花が撒かれ、花火、梵鐘、雅楽の調べが鳴り響くなか、稚児を先頭に行列で新本堂に向かいました。

堂内は県内各地はじめ北海道ほか全国各地からの檀信徒、安穩会員、そして工事関係者、来賓寺院、それに地域のひとたち総勢四百五十人余りで溢れんばかり。舞い舞われるなかで、お釈迦様像の安置が行われました。

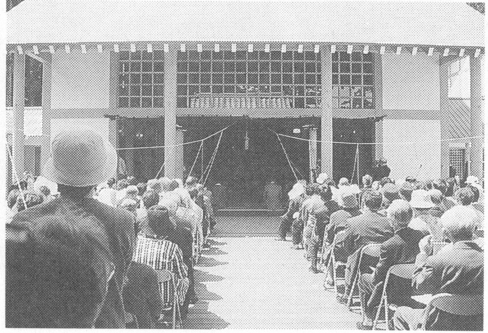
引続いて開眼と新本堂の落成慶賛法要。式中本誌の最初に掲載した仏様への読奉告文、はからずも住職感激の涙での読

み上げでした。

終了後回廊で囲まれた板張りの庭、「院庭」で参百五十人の祝賀会。寒さばかりを心配してたのが、暑さで祝辞の最中に配られたビールが暖かくなって、しまうハプニングも。終始和やかで、



堂内外もいっぱいの人



開式を待つ

ことのほか盛大な落慶式でした。
この模様はじめ、一年間の工事記録をビデオにまとめています。ご希望の方はお申し込みください。

本堂工事会計報告

寄付金を月掛けの方も多く、入金は完了していません。しかし業者への支払いがありますので、銀行から三千万円を二、七五%で一年間の借り入れをしました。



法 要

終始は寄付金が百分完納されると過不足なしの見通しです。秋には途中集計して経過報告します。ご協力に深く感謝申し上げます。残金のあります方には引き続き宜しくお願ひします。

本堂工事寄付者名簿

希望が多いので工事にご協力いただいた方のお名前を、木札に書いて回廊に掲示します。五万円以上、金額を入れずに地区別五十音順です。

護持会報告

四月一日の総代世話人会議で、護持



近づいてお参りする人達



祝 賀 会

会々計その他を協議しました。例年通りに本年もまいりますので、年会費一万円のご協力をお願いします。詳細は全權家に別紙ご報告します。

「安穩廟」満杯ま近

四基目を受け付けていた安穩廟があと少力で満杯です。計画はこれが最終ですので、これ以上は増設しない予定です。

これによる安穩基金は一億六千万円に達し、現在五%の運用が見込まれています。

新体制計画

新本堂が完成し「ここで葬儀や法事をしたので使用料を規定して欲しい」と言う声があります。こうした希望をはじめ、これからの妙光寺のありかたを考へるべきときに来ているようです。

また前述の安穩基金がかなりの運用益を生みだし、同時に行政から宗教法人は公開性を高めよという指導があります。



そこで役員会議で検討し、まず来年度から会計のやり方を変えて行こうとなりました。逐次お知らせしますが、役員も張り切っていますので、ご理解、ご協力をお願いします。

「ひとり芝居」大盛況

県内の方を中心に案内しましたが、五月十九日夜、新本堂前院庭で芝居を上演しました。人が集いどんどん利用され



る寺であつて欲しい旨伝えるため、主催は実行委員会にして。地元教育委員会、新潟放送、新潟日報社の後援をいただきました。

当日激しい雷雨が続いて心配されましたが夕方には晴れ上がり、五百人近い観客で大盛況。後日「すばらしかった」との感想が新聞に投書されるなど、大成功でした。

位牌檀・永代供養規定

新本堂脇にできた位牌檀の新しい利用規定を前号お伝えしました。一基当たり年間一万二千円で、どなたでも申し込めます。

併せて永代供養の問い合わせがありましたので、役員会議で協議の結果、一霊位を一年間一万円とし、三十年(二十万)からお預かりと決めました。その場合妙光寺で個別の位牌を作ります。詳細はご相談ください。

「僧風林」開設

将来お坊さんになりたいという小学生のため、夏休みを利用した研修道場が妙光寺を会場に開かれます。日蓮宗北陸地区管内の子供たちが対象で、主にはお寺の子供が多くなりますが、誰でも参加できますので皆さんのお子さんは如何でしょう。

七月二十七日から三十日の三泊四日、費用は一万円。男女問わずです。

写真展「和顔施」わがんせ

新潟市で写真館を営む増井伸一さんが、これまで撮影した多数の家族の肖像写真を妙光寺で展示します。増井さんは生まれた寺を継ぐのがいやでカメラマンになったのが、義父の安穩廟への埋葬で妙光寺を知り、改めて寺を考えたといふ妙光寺での写真展を依頼されました。

八月十七日から二十五日まで
入場自由です

中国旅行計画延期

前号で秋に中国団体旅行の計画をお知らせしましたが、募集人員に到達の見込みがありません。よつて今回は延期とします。



位牌檀地使用規定

新しい位牌檀での位牌お預かりを、左記のように規定しました。

一年間 一万二千円

毎年一〜三月に納入ください。

●今年に限り年度の途中からになりますので五千円とします。

●所定の繰り出し位牌に法号を書いて、月命日にご回向します。

●継続の方以外は新規の位牌購入代金一万三千円が最初に要ります。

永代供養規定

永代供養を希望される方が少なからずありますので、左記のように規定します。

●一年間を一万円として、三十年間以上から受け付けます。

●申し込み者には妙光寺で個別の位牌を作り、位牌堂最上檀に安置して月命日のご回向を継続します。

※ 右の受付は檀家、安穩会員他どなたでもいたします。

「本堂工事記録ビデオ」販売します

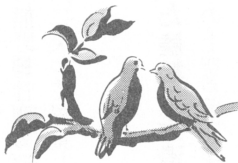
一年余りに渡った本堂、祖師堂建て替え工事を、専門業者が全てビデオに記録しました。これを音楽、ナレーションを加えて四十分程に編集します。

完成は秋になるかと思いますが、希望者に予約販売します。妙光寺までお申し込みください。申し込み数だけしか制作しません。

一本 三千円（直接渡し）

二千五百円（送料込み）

代金は現品お渡し時で結構です。



寺の自然

「荒れる里山」



県立巻高校教諭 藤田久

境内のムササビ調査からしばらくご無沙汰している。一緒に動く高校生も様変わりするなかで夜行性動物相手に新潟市から連れてくるのも困難な状況になり、共同研究方式そのものが成り立たなくなつてしまった。その後は一人でムササビの撮影に力を入れて通い、傑作写真が撮れかけてきた頃、赤く枯れた松が妙光寺の周辺で目立ってきた。

ムササビの移動を追う

五年も通つたことになるが、その間、調べたかったことに境内のムササビが巣穴から出て周辺地のどこまで出かけ、いつ戻るのかという行動圏の解明がある。このため闇夜に張り込んで移動をキャッ

チしようと思線を使つて追跡する作戦を試みていた。

この解明されたルートは一つだけある。まず境内から山門を経て「安穩廟」前の急斜面に移動し、さらに斜面途中に一際、そりたつ松の先端から「題目堂」方向もしくは、反対側のシーサイドラインの松林に向つて一飛びの大滑空をなしとげて林内に消えていくルートである。後者の滑空距離は実測で水平にして約100メートル。上空で大型ライトに照らし出された白い飛膜は、次第に速度を増していく。この滑空シーンは、まさに「空飛ぶ座布団」そのもので、とてもケモノがなす業とは思えなかつた。

さらにシーサイド沿いに松林の中を滑空移動して熊野神社側のヤギ小屋あたりから境内に戻つて帰巢し、移動が完了する。

幻になつた崖松の大滑空

「安穩廟」の上空を滑空するスタート台に使われた松のことを「崖松」と呼ぶ。次の移動に利用する中継木の役割があつた高木なのだが、とうとう松枯れが生じて伐採される運命になつた。下を歩く参拝者に危険が及ぶため、やむを得なかつたのだが、ムササビ観察の終焉を示す第一歩だつた。

その後、松枯れの被害は広がり、隣の熊野神社の参道に並ぶ松にも及び、ここでも何本か伐採され、ムササビの中継木が失われてしまった。そのうち海岸や山の斜面までが白骨化した松林の風景に変貌していったのである。

今は、闇夜を駆け巡つてライトで探していくパワーは、もはや無くなつた。あの崖松から飛んでマツ林に吸い込ま

れていった大滑空の残像は今だに目に焼きついて思い出される。

松枯れの原因説?

松枯れの原因はカミキリムシの一種、マツノマダラカミキリの大発生なのだが、その体に寄生している線虫がマツの樹脂道をつまらせて枯死させるといわれる。このためシーサイドライン沿いには毎年、防除の空中散布が行なわれる。それでも、なぜ効果があがらないのだろう。役所によると空中散布をした範囲は効果があるが、完全に散布しきれない所から伝染するのだという。枯れたマツについても薬剤でくん蒸しないと線虫が生き残って健全な木に広がる虞があると聞かされたが、何か釈然としない。

場所は変わるが、日光で有名な男体山に登ると山頂のシラビソ林に白骨化が広く見られる。これは京品地帯からの大気汚染の煙が原因だといわれている。だから松枯れも、これだけ広がると酸性雨で抵抗力が弱まった複合汚染ではないかと

考えたくなるのだが、役所は認めていないので、まだ推測の域を出ない。

松枯れの次はナラが危ない

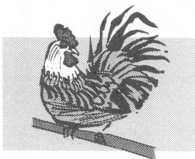
昨年の晩秋に弥彦の多宝山に登ったときのことである。クリタケを目当てに中腹でナラの根本を探しまわるのだが、収穫は一本限り。先を越されたのだとあきらめるしかなかった。そのうちに根本に米ぬかを播いたような粉の跡に気付いた。見上げれば葉が茶色に縮みかけている。こうした光景は屋根に登りながら出会うナラの木にはほぼ共通して見受けられた。粉の方は幹の途中にある小さな穴からこぼれ出たものでキクイムシだと直感した。

半月後、五泉市の普名岳に登ったのだが、こんどはミズナラの大木にも幹に多数の穴を見つけた。葉も褐色に縮れていた。広範囲に及ぶカミキリの分布には不安な思いがして、さっそく県林業試験場に問い合せた。

虫はカシノナガキクイムシによるも

のだそうだ。ナラ類のみならず九州ではシイ・カシ類にまで枯死被害が発生して県内は北部、中部で被害が見られ、日本海側の山形から島根県にかけてナラ類に集団発生が報告されている。直接の蓋は線虫ではなく、キクイムシによって媒介されたナラ菌が関与していることはわかっているものの被害発生のメカニズムはまだ十分解明されていないとのこと。

戦後から育ったナラ類が被害に直面しているのだから、このままでは、ほだ木が不足してシイタケ生産農家に打撃を与えてしまうだろう。ドングリを植えて荒れた里山の再生を試み、第二の松枯れを防ぎたいものである。



夏のフェスティバル



安穩廟四基目も残りわずか。場所はまだありますが、あまり大人数でも対応に支障がでますので、当初の予定通り五基目は建設しません。

妙光寺の近くで高齢者施設に使えそうな保養施設が売りに出ています。専門家と改築の設計図を作り、工事の見積りを試算しましたが、とても採算が取れないことがわかりました。最近では近くにも施設が数多く建設され、国などの補助金を受けてかなり安価に利用できます。妙光寺が自前で建設、運営するより、入居者への支援をする方が得策と判断しました。

こうした生活支援のひとつとして、最近目だつて多いのが葬儀の生前申し込み

です。中には「もしものとき関東から遺体のまま搬送して葬儀を。経費は生前に支払いたい」という希望もあります。葬儀だけならいつでも対応できますし、遺骨の搬送からでしたら前例もあります。しかし付随してさまざまな権利関係が発生してきますので、必要に応じて法律上の問題をきちんと整理する必要があります。

最近はこちらのサービスをやる会社や団体も増えてきて、なかには要注意のところまであるほどです。それなら直接に妙光寺がお受けするのが一番です。先ずする寺や団体に学んでその態勢を作ります。

今年のフェスティバル安穩はこれが

テーマです。人生の幕引きについて考えたり、支援したりする各地の寺やグループ話が聞けます。高齢者問題に詳しい村田幸子さん（NHKの解説でおなじみ）も「フェスティバル安穩には前から伺いたかった」そう、ゲストにお招きしました。

宿泊の日程はやめました、新本堂で語り合い、懇親パーティーも回廊に囲まれた板敷きの庭で開きます。法要はやや時間を遅くしてローソクの明かり、オリジナル曲をシンセサイザーで生演奏です。作曲演奏が北海道旭川の佐々木さん。木本さんというプロの舞台監督もスタッフに加わり、大がかりな装置で荘厳に繰り広げられます。

参加申込方法が変わります。交流パーティー参加と送迎バス利用の方のみ事前申込してください。ローソクの献燈もぜひに願います。年会費も忘れなく。

命のあたたかさ、そして…

小川 なぎぞう

半年前から寝たきりになった犬のポチコはいまだ元気に寝たきり生活を送り、世話は大変ですが、我が家の癒し系とも言える存在になっています。私を母と慕っていたにわたりは、この冬さつきまで

さわいでいたのに、ふと見ると居間の出入り口にうずくまりコロリと死んでしまいました。見事にあっけなく。

命はあたたかいということを、動物の死でさえも教えてくれます。こんな時には肉を、魚を、多くの命をもらってつないでいる自分の命を少し恨めしく思ったりもします。

本堂の工事について、大掛かりなイベントも終わったとたん疲れが出て少し休

んでいるあいだに、おもしろい本を読みました。明治時代に日本を旅したボヘミア人の旅行記です。そこに「鎌倉の大仏」についてふれた記述が興味深いので紹介します。

「キリストよりもずっと前に、仏陀はすべての生けるものに愛を教えた。仏陀の教えを身に付けたものは、東アジアに最大の恩寵を与えた仏陀に最大の敬意を払わなければならない。：日本人は仏陀を「仏」または「釈迦」と呼びかえた。：仏像の顔立ちには、平和な安心立命の境地を映しだしている。額にうめこまれた水晶は透明な良心をあらわし、仏像を飾っている蓮は人間

の命の象徴である。蓮の蕾が地面からのびて魅力的に花開くように、人間の靈魂は善行によって仏陀の域にまで高められ、そして、涅槃に開放される」

本堂のお釈迦さまも、蓮の花の上にお座りになり、額には水晶があります。本堂のいすに座り、いろいろなことを考えました。透明な良心、善行とはいったいどんなことなのか。それが愛なのか。もっと分かりやすく法華経の教えをとおしてそのことを教えてもらいたいと思います。

けれども、難しいことは知らなくても、命の温かさは実感として知っています。この感覚を忘れないでいようと思います。死んだにわたりの体温を覚えているように、そして命の終わりはだれにでもあるということも、怖いけれど逃げずに考えようと思います。



行事案内

七月八日～十五日

関東地区お盆経

住職が日時ご連絡の上お伺いします。
従来の檀家宅ですが、安穩関係でご希望の方はお知らせ下さい。

八月一日(水)

お盆墓参り・施餓鬼法要

午前 六時 墓お経受付開始

(安穩廟のお経もお受けします)

〃 十時半 安穩廟法要

〃 十一時 施餓鬼・新盆法要

昼 十二時 おとき(どなたでも)

午後 一時 お説教

七月中に世話人が各家に護持会費、
施餓鬼塔婆供養料をいただきに伺います。

県外、新潟市等遠方の方は郵便振替
か、八月一日にお持ち下さい。塔婆供養
の申し込みは当日混雑して間に合わない
ことがあります。事前にお申し込みのう
え、代金は振替か八月一日にしてください。

八月十三日～十六日

お盆棚経

例年通り住職と鎌田、それにお手伝
いのお上人の三人が手分けして全檀家に
伺います。何日になるか知りたいた方は、
八月十日過ぎに電話でお問い合わせ下さ
い。予定をお知らせします。

新潟市、新潟、三条、加茂、燕等遠
方の地区は、十日前に伺いますので予定
日時をご連絡します。

八月十九日(日)

岩屋七面宮祭礼

午前十時半開始 詳細の日程未定。

お昼にお供物で赤飯の準備あり。

八月二十五日(土)

第十二回フェスティバル安穩

午後一時から 参加自由

詳細は別紙案内をご覧ください。

九月二十三日(日)

秋季彼岸会法要

午前十時半 安穩廟法要

〃 十一時 彼岸中日法要

昼 十二時 おとき(どなたでも)

午後 一時 お説教

あ
と
が
き



新本堂が快適です。声がよく響くので
お経も読みやすく、お参りの方々からも
とても心地よいと評判は上々です。なに
よりも朝、裏山からのウグイスはじめ野
鳥の鳴き声が、とてもよく堂内に響くん
です。外の鳴き声が響くんですからとて
も不思議な感じですよ。

日曜日など子供連れが遊ぶ姿もめっき
り増えましたし、回廊でのんびり座る人
の姿もほのぼのとします。

私たちも動きやすく、掃除も楽になっ
てとても助かります。しかしこれまでの
疲れ、残務整理、これからのこと等々、
仕事は途切れることがありません。若さ
で(?) 頑張ります。

小川記